

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	心理学 (Psychology)		
ナンバリングコード	E11001	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 基礎レベル 心理学
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 後期集中
必修・選択区分	選択:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E040152	クラス名	2020以前学生用
担当教員名	下川 武志		
履修上の注意、履修条件	社会福祉士の指定科目(選択)です。 NSCA-CPTの指定科目です。 遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断入室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	あなたのこころを科学するVer.3 古城和敬他(編著) 北大路書房 新・社会福祉士養成講座 第2巻 心理学理論と心理的支援 社会福祉士養成講座編集委員会(編) 中央法規		
関連科目	発達心理学、臨床心理学、社会心理学、老年心理学、カウンセリング、精神保健学、心理アセスメント、コミュニケーション演習、その他社会福祉士指定科目およびNSCA-CPT指定科目		

○基本情報	
授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、専門的力量的の育成として人間へのあくなき関心と人間の心についての基礎的な知識の修得を目標とします。同時に、世界の現象や人間行動を多面的に多角的に観察する視点を獲得します。
授業の概要	心理学的な考え方、ものの見方、人の見方、方法、これまでの成果について学びます。心理学を学ぶ意義は、他人の心の理解と自己の客観的把握です。講義ではこれまで開発されてきた心をとらえるための工夫を凝らした方法や、これまでに明らかになった基礎的な成果について心理学実験や心理検査を体験することを通して解説していきます。特に、人間の基本的な心のしくみにあたる知覚・認知・ストレス・動機づけ・対人認知・人間関係について考えます。 パワーポイント・スライドによる授業を行います。各自授業ノートを用意して、自筆で書き取ります(撮影は禁止)。ただし、障がい等による機器使用については相談のこと。 授業終了時に課題レポートが出ますから、期限内に毎回課題レポートを書いて提出します。提出方法は講義時に指示します。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①学習すること自体に興味・関心をもつこと。 ②自分および他者の心に興味・関心をもつこと。 ③以上を踏まえて、人間関係にチャレンジすること。		10点	
【知識・理解】	基本的な心理学の概念を理解すること。	40点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	心理学概念を身近なことにひきつけて表現できること。		10点	
【思考・判断・創造】	多面的多角的視点から物事を考察できること。		20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
課題レポートの論点・内容は、毎回の与えられた課題に応じて、授業中に学んだ心理学的成果や一般論を考察し、自分に引き寄せて問題解決をめざし、創造的に論じていけば、4点/1回(×15回=60点)となります。そして、関心・意欲・態度、知識・理解、技能・表現・コミュニケーション、思考・判断・創造の観点から総合的に評価します。課題レポートについては、次回以降の授業中に講評・解説または個別に、フィードバックを行います。評価方法は以下の通りです。 A(4点) 講義の内容をよく理解し、強い関心をもって創造的に自分の考えをしっかりと述べている。 B(3点) 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C(2点) 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D(1点) 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。 E(0点) 題意から外れた回答になっている。	

○その他	
期末試験では、心理学の基本的な知記・理解を確認して評価します(40点)	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	心理学 (Psychology) 下川 武志	授業コード	E040152
学修内容				
1. 心理学とは何か 心は直接見たり、さわったりすることができません。したがって、心理学では心を科学的に調べるための工夫を凝らしてきました。刺激を与えて、人間の行動を観察・測定して、その行動から心を推測する方法について考えます。				
予習		心理学についてのイメージを考えてみます。	(約2.0h)	
復習		自己開示の返報性と自己開示の効果についてまとめます。	(約2.0h)	
2. ものを見る・知る(1) 「知覚的世界」無いのに見える、在るのに見えないということがあります。あるいは、人と同じものを見ていると思っても、同じものに見えていないこともあります。実際に知覚に関する心理学の図版を用いながら、見るということについて考えてみます。そして、知覚の外在性について考えてみます。ものの世界である物理的世界と私たちの心の中で生じている知覚的世界を区別してみます。				
予習		「知覚」について調べてみます。	(約2.0h)	
復習		知覚的世界についてまとめます。	(約2.0h)	
3. ものを見る・知る(2) 「知覚の統合性」 見えているものはまとまりをもっています。視野が等質な光に満たされていると、形は知覚されません。図と地が分化して、初めて形が知覚されます。図と地の関係について考えます。どのようなものが図になりやすいのかという、図になりやすい要因についても考えます。				
予習		「図と地」について調べてみます。	(約2.0h)	
復習		「図と地の関係」についてまとめます。	(約2.0h)	
4. ものを見る・知る(3) 「図の群化」 知覚は単に対象となる物事に由来する個別的な感覚刺激によって形成されるのではなく、それら個別的な刺激には還元できない全体的な枠組みによって大きく規定されます。視野の中いくつかの図が成立するとき、通常これらの図の間にはある秩序を持ったまとまりが生じてきます。これを群化または体制化といいます。				
予習		知覚における群化(体制化)の要因について調べます。	(約2.0h)	
復習		「図の群化(体制化)」についてまとめます。	(約2.0h)	
5. ものを見る・知る(4) 「知覚と知識・感情・欲求」 刺激の知覚過程(あるいは記憶・認知)において、前後や周り(環境)の刺激の影響で、対象となる刺激の知覚が変化する現象を文脈効果といいます。知覚におよぼす知識・感情・欲求の影響について考えます。				
予習		文脈効果について調べます。	(約2.0h)	
復習		文脈効果についてまとめます。	(約2.0h)	
6. ものを見る・知る(5) 「記憶と理解」 どのような情報でも生のままに記憶されることはほとんどありません。それ以前の過去の経験から獲得してきた知識に沿って、いろいろな処理や加工を受けて、記憶すべき情報や記憶された情報は変容します。記憶の枠組みであるスキーマやその働きについて考えます。				
予習		短期記憶と長期記憶について調べます。	(約2.0h)	
復習		短期記憶とチャンクについてまとめます。	(約2.0h)	
7. ものを見る・知る(6) 「認知」 記憶すべき内容を単に機械的に丸暗記し、くり返すだけでは効率的な記憶法とはいえません。チャンク化・体制化・理解・記憶すべき情報の事態の必然性あるいは記憶術の視点から、記憶を促進させる方法について考えます。				
予習		記憶における体制化について調べます。	(約2.0h)	
復習		スキーマについてまとめます。	(約2.0h)	
8. ものを見る・知る(7) 仮現運動と両眼立体視 その他の時間的・空間的な知覚の統合性について補います。例えば、アニメや映画の原理であり、物理的には静止したものが動いて見える現象である仮現運動やランダム・ドット・ステレオグラム等を用いて、平面的な網膜像を立体視するしくみについて考えます。				
予習		仮現運動について調べます。	(約2.0h)	
復習		仮現運動についてまとめます。	(約2.0h)	

○授業計画	科目名 担当教員	心理学 (Psychology) 下川 武志	授業コード	E040152
学修内容				
9. ものを見る・知る(8) 「知覚と運動の協応」 奥行知覚の経験的手がかり(心理的手がかり)、つまり、学習された手がかりについて学びます。また、異なる感覚様相間の統合、すなわち異なる刺激源からの刺激が、1つの統一された対象の知覚に導くことや運動との統合について学びます。				
予習		奥行き知覚について調べます。	(約2.0h)	
復習		奥行き知覚の経験的手がかりについてまとめます。	(約2.0h)	
10. ものを見る・知る(9) 「錯視」 物理的に計測された刺激やその変化に対して、私たちの知覚がずれてしまうことがあります。遠刺激と知覚が一致しない場合が錯覚です。近刺激の変化に知覚が対応しない場合を知覚的恒常性といいます。これらの現象について考えます。				
予習		錯視について調べます。	(約2.0h)	
復習		錯視についてまとめます。	(約2.0h)	
11. 自分を見る・知る(1) 「自己」 自己は心理学の中でも大きな研究テーマです。心理学の中でとらえられている自己について学びます。心理テスト1)自己概念2)私は誰(Who am I?)を実施してみて、実際に自己分析をすることで、自己について考えてみます。				
予習		アイデンティティ(自我・自己同一性)について調べます。	(約2.0h)	
復習		アイデンティティ(自我・自己同一性)についてまとめます。	(約2.0h)	
12. 自分を見る・知る(2) 「パーソナリティ」 パーソナリティとは、個人の行動にみられる感情や意志の特徴をさし、一貫性と安定性をもつものであり、その人を特徴づけている行動傾向とされます。パーソナリティテストを実施してみて、自分のパーソナリティについて考えてみます。				
予習		自分の性格について考えてみます。	(約2.0h)	
復習		自分のパーソナリティについて分析・考察します。	(約2.0h)	
13. 自分を見る・知る(3) 「ストレス・感情・動機」 ストレスについて学びます。とくに、ストレッサー(源、刺激)とストレス(反応)の視点から考えてみます。そして、実際にストレス反応を測定してみて、自分のストレスの程度を考えてみます。さらに、行動の原因である感情や動機づけについても考えてみます。				
予習		自分のストレスについて考えてみます。	(約2.0h)	
復習		自分のストレスについて分析・考察します。	(約2.0h)	
14. 他人を見る・知る(1) 「社会的認知」 自分のまわりにいる人間やグループそしてそこで起こるできごとについて、私たちはさまざまに推測し、判断を行うが、その心理的仕組みを解き明かすことが社会的認知の研究です。対人認知・印象形成・バイアスについて学びます。				
予習		社会的認知について調べます。	(約2.0h)	
復習		自分の自己モニタリング傾向について分析・考察します。	(約2.0h)	
15. 他人を見る・知る(2) 「クリティカル・シンキング」 自分の考えであれ、他人の考えであれ、人間の思考に対して、いろいろな角度から、あれこれ批判的に考えてみることをクリティカル・シンキング(critical thinking)と呼んでいます。決めつけた考え方をしないための思考法を学びます。				
予習		クリティカル・シンキングについて調べます。	(約2.0h)	
復習		クリティカル・シンキングについてまとめます。	(約2.0h)	
16. 期末試験 学習の総まとめとして、授業範囲内の心理学の基礎的知識・理解を確認します。				
予習		期末試験に備えて授業ノートを整理しておきます。	(約2.0h)	
復習		ありません。	(約2.0h)	